校長室だより～燦燦～ №５０６

教師道

2022.2.17

「教師道」こんな言葉があるのかというと、聞いたことがないので、たぶんない。教師力、授業力、人間力などの「〇〇力」という使い方は、すっかり定着した感がある。一方、教師道、授業道、人間道などの使い方はなされていないように思う。

あるテレビを見ていて、教師道という言葉が浮かんだ。教師にも道をつけることができるのではなかろうかと考えた。道に終わりはない。どこまで行ってもゴールというものがない。すなわち、これでいいという状態が存在しない。ここまでできたら合格という明確な基準があるわけではない。

授業で考えてみる。すばらしい授業とかいい授業という言い方がある。だからといって、授業に１００点満点があるだろうか。学級の子どもたち全員にとって満点と言える授業などあるのだろうか。あるのかもしれないが、現実には存在しない。それほどに授業はむずかしい。簡単ではない。

ただし、満点に近づこうとしている授業はある。それをすばらしい授業、あるいはいい授業と表現しているのではないか。満点とは、すなわち学級の子どもたち全員のことを真剣に考えているということである。学習とは個において成立するのである。

学級経営で考えてみる。満点と言える学級などあるのだろうか。３０人ほどの子どもたちが毎日生活する学級という場、空間において、全員が満足できる学級をつくることはできるのだろうか。私のイメージでは、授業よりはできそうな気がする。だが、これもかなりむずかしい。

いい学級、すばらしい学級はあるのかもしれないが、これでいいという学級はないだろう。最高の学級などという言葉を、そう簡単に使うべきではない。

授業と学級経営で考えてみたが、教師道すなわち道には、困難さがつきまとう。悩みや苦労の連続である。ああでもない、こうでもない、ああすればよかった、これではだめだと、毎日毎日思い悩む。それが道なのであろう。

そうであるならば、教師たる者、教師道に生きたい。道を究めたい。いや、究めようとする姿勢や信念が必要である。言い換えれば、自分はどんな先生になりたいのかというシンプルな質問と重なる。

教師力と教師道とでは、かなり意味合いが変わってくる。教師力と言われても、もはや誰も反応しないであろう。この言葉の賞味期限は切れている。では、教師道と言われたら、どうであろうか。少しは、反応するように思うのだが。ただし、多くの先生方は、教師力にもまして困難なもの、レベルの高いものと捉えるように思う。教師力よりも抵抗感を抱く言葉であろう。それほどに、道とは果てしなく遠いものである。